一般質問

６月定例会では、17人の議員が一般質問を行いました。
質問の持ち時間は答弁を含めて１人60分です。
ここでは紙面の都合上、１人１項目を選び質問・答弁を要約し、分野ごとにまとめて掲載しました。

※２次元コードから一般質問の動画をYouTubeにてご覧いただけます。
※６月定例会の一般質問は６月16日に通告を締切り、６月28日から４日間の日程で行いました。

中学校の図書室に設置されたエアコン

こども・教育

預かり保育の費用

保護者負担の軽減ができないか 実現に向けて取り組んでいきたい

小山田直人議員（公明党）

幼稚園における預かり保育の費用について、本市では月額1万1300円の助成を行っているが、当該助成を除いても夏休み等の長期休暇には預かり時間が増えるため、月額約7万円の保護者負担となるのが現状である。他方、松戸市では月額3万円を上限に助成を行うことで、共働き世帯の負担軽減を行っている。そこで、本市でも同様に保護者負担の軽減ができないか。

答　本市としては、利用しやすい環境を整備する上で、保護者負担の軽減について、他市の事例の研究・検証をしっかりと行い、それを踏まえ、実現に向けて取り組んでいきたい。

学校教育環境の整備

エアコンの設置　市長の考えは 積極的に予算の配分を行いたい

中村よしお議員（公明党）

近年、我が国の最重要課題の一つに少子化対策があり、持続可能な自治体経営のためには、子育て世代の定住を促進することが重要と考える。その点からも学校教育環境の整備に重点的に取り組むことは必要と考えるが、学校の特別教室へのエアコン設置の事業化について、市長の考えを問う。

答　学校の特別教室等にエアコンを設置することは、議会の総意と認識している。また、少子化対策という面においても、学校設備の向上は重要であるため、教育長と協議をしながら、特別教室等のエアコン設置には積極的に予算の配分を行っていきたいと考えている。

清掃

ごみの指定袋

他市と協力して価格を一律に 各市の状況などを踏まえて研究する

国松ひろき議員（創生市川）

本市と船橋市の市境付近では、それぞれの指定ごみ袋が販売されているが、その価格は本市の方が高くなっている。他市の安価な指定袋を買いたいと思うのは市民感情として当然といえるが、本市の集積所では他市の指定袋は回収してもらえない。市は他市と協力して価格を一律にできないか。

答　指定袋の価格を一律にすることについては、各市のごみの分別、収集、処分の状況を調査し、少容量化など市民の要望を踏まえつつ研究していく必要があると考えている。また、近隣市との広域行政協力体制を築いていくことも非常に重要であると認識している。

家庭ごみ有料化

ごみ減量のため有料化は 市民に負担をかけるため慎重に対応

石原よしのり議員（市民の力）

本市では、クリーンセンターの建て替えを予定しているが、建て替えまでにごみを減量し、それに見合った規模の施設とすれば、建設費用や、その後の収集・処理費用が削減できる。そこで、ごみの減量化が見込める家庭ごみ有料化について、市の見解を問う。

答　施設規模を考える上で、ごみの減量化は課題である。有料化によりごみ減量につながる可能性はあるが、市民負担を伴うため慎重に考える必要がある。今後は市民へごみ減量の協力を求めつつ、建て替えのタイミングを逃すことなく、有料化についても検討を進める時期に来ていると考えている。

防災

ひょうによる被害

見舞金による支援は 災害見舞金品支給規則に基づき対応

中町けい議員（市民の声）

令和4年6月3日のひょうにより、市内の住宅等に被害があったが、風水害は保険の対象外であったり、高額な修理費が必要な場合があると聞く。そこで、ひょうの被害に対し、市民へ寄り添う気持ちを持って支援を検討してもらいたいが、ひょうの被害に遭った人への見舞金による支援について、市の見解を問う。

答　住家が半壊以上の被害を受けた場合には、災害見舞金品支給規則に基づき見舞金品を支給することとなっている。現在のところ半壊以上の被害を受けた住家の情報はない。なお、自動車やカーポートなどの損壊については対象外である。

福祉

市川市手話言語条例

条例制定　市の認識と具体策は 施策の具体化について見定める

やなぎ美智子議員（日本共産党）

令和4年2月定例会において、市川市手話言語条例が全会一致で可決されたことで、当事者団体などから、認識と具体策を問う。

これからの本市の取り組みに期待が高まっている。本条例の中で、本市の責務や努力義務について定められたが、これを受けて、市の認識と具体策を問う。

答　市川市手話言語条例の制定を受け、手話は言語であるという理念に基づき、手話に対する理解の促進を図るため、施策の具体化を進める方法を見定めていかなければならないと認識している。今後、対象者の範囲などについて関係部署や市内公共交通事業者などと調整しながら、市独自の制度の構築を検討していく。

シルバーパス制度の導入

今後どのように進めていくのか 市内事業者などと協議し進める

堀越優議員（公明党）

市は、高齢者や障がい者の外出支援策としてシルバーパス制度の導入を検討しているとのことであり、このような施策は大変有益であると考える。今後、市は当該制度の具体的な内容について、どのような観点から検討を進めていくのか。

答　当該制度を含めた本市の外出支援策については、多くの市民に外出の機会を提供することで、外出に困難を抱える人に加え、健康な人も支援するという観点から検討すべきものと認識している。今後、対象者の範囲などについて関係部署や市内公共交通事業者などと調整しながら、市独自の制度の構築を検討していく。

ひきこもりの問題

解決に向けた取り組みは 情報を共有し支援につなげていく

さとうゆきの議員（無所属の会）

ひきこもりの問題については、本人や保護者が高齢化し、経済的問題や介護問題も伴う8050問題としてメディア等でも報道されている。そこで、将来的にひきこもりの大規模調査やプッシュ型の情報発信、支援が必要であると考えるが、問題解決に向けた本市の取り組みについて問う。

答　支援する上での課題は、長期的な支援を必要とすること、本人や家族へのきめ細かな対応を不可欠とすることなどである。今後、相談窓口等の関係機関において、ひきこもり状態にある人に関する情報を共有し、より適切な支援につなげられるよう努めていく。